

特別講演 2

「AMR（抗菌薬耐性）アクションプランと感染対策」

福井大学医学部附属病院

医療環境制御センター感染制御部

感染症・膠原病内科 教授

岩崎 博道 先生

2016年4月、わが国では「国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議」が設置された。政府主導で抗菌薬耐性（AMR）アクションプランが策定され、世界と並びG7伊勢志摩サミットにおいて発表された。One Healthの考え方に基づく動物産業も含めた協働体制に基づくアプローチも強調されている。この中でいくつかの成果目標が設定された。たとえば2020年には黄色ブドウ球菌に占めるMRSAの比率を20%以下に低下させること、大腸菌に占めるフルオロキノロン耐性率を25%以下に低下させること、および2013年を起点として1日の抗菌薬使用量を2/3に減少させること等が挙げられている。この目標を達成するためのハードルは高いとの意見も聞かれるが、全国的に感染管理加算を取得している施設では、この達成に向けて積極的な取り組みがなされている。来年はいよいよ成果目標の年となるが、その現状と限界について概説する。